

# 答申書

嬉野地区地域審議会

(平成 23～24 年度)

平成 25 年 1 月 15 日

松阪市長 山中 光茂 様

嬉野地区地域審議会  
会長 山本 恭嗣

「地域でできること」について（答申）

平成 23 年 9 月 15 日付け 11 松戦第 000358 号をもって諮問された「地域でできること」について、次のとおり答申します。

記

1. はじめに

嬉野地区地域審議会は「本市の将来像の実現に向けて、各地区それぞれにおける『地域でできること』について」諮問されました。

「地域でできること」を明らかにすることは、すなわち私たちが住んでいるこの地域の将来像を実現するために地域住民に何ができて、またそのことを実行する上において何が必要かを明らかにすることです。その根本精神は「自分たちのまちは自分たちで良くしよう」というものであり、すべての地域住民の理解と協力を必要とするものです。

この前提の下、当地域審議会では真摯な話し合いを重ねるだけでなく、地域住民の様々な意見や要望を具体的に聴取するため各地区の住民協議会に出向き、事業内容の把握に努めるとともにワークショップや意見聴取会の開催にも取り組んだところです。

こうした取り組みを経て、この度具体的な提案を答申するに至ったところです。この答申後も、今後の時代や社会の変化、住民の新たな意見などを踏まえて改革を不断に進め、より良き地域の実現に向けて取り組んでいくことが重要であると考えています。

また、行政には住民の主体的な活動に対する側面からの支援を、そして住民の力や行動だけでは解決が難しい課題に対しては、住民の要望に対して直接的な支援を行うことなどをお願いしたいと考えています。

地域審議会は平成 27 年 3 月末でその役割を終え廃止されることとなりますが、残りわずかな期間も松阪市とりわけ嬉野地区住民が幸せを実感でき、子どもたちが思わず自慢したくなる「ふるさと嬉野」の実現に向け、真摯な活動を続けていく所存です。

## 2. 審議の方向性

当地域審議会では、議論の方向性について前期における市長の諮問に対する答申をさらに具体化し行動につなげるため、4本の柱（テーマ）をもとに議論することとしました。

### 前期の答申

「地域の未来の姿について」

ぬくもりとつながりを感じる

子どもたちが思わず自慢したくなる「ふるさと嬉野」の実現

### 4本の柱（テーマ）

- (1) 地域ぐるみで子育て
- (2) それぞれの世代の居場所づくりと交流
- (3) 地域のビジネスプランと交流
- (4) 人材育成

委員を3グループに分け、主として1グループ1本の柱（テーマ）について、どのような活動があるか、その活動を地域住民の具体的な行動につなげていくにはどうすればよいかなどを議論しました。

また、審議の参考にするため、広く嬉野地域住民の考えや住民が求めていることを把握する必要があると考え、現在活動している各地域の住民協議会に赴きその事業内容を理解するとともに、ワークショップやシンポジウムを開催して地域住民や活動している団体等の意見聴取を行い、答申の内容に反映することなどを行いました。

## 3. 提案

### (1) 地域ぐるみで子育て

子どもの頃に自然の中で思い切り遊んだり、さまざまな実体験をすることは懐かしい思い出となり有意義な経験となります。

しかし、近年、子どもたちの歓声が地域から消えてしまったように感じます。

好奇心や創造力を持ち大人になっても夢を語れる子どもを地域ぐるみで守り育て、ずっと地域を大切に子どもたちを育てていきたいと考えます。

- ① 地域の集会所を利用し、託児所の開設や、2世代、3世代が気軽に集まれる交流の場を作りたいと考えます。

(期待される効果)

- ・ 伝統芸能や昔の遊びなど子どもたちと共に楽しみながら伝承する。
- ・ 放課後の子どもたちを見守り高齢者の生きがいをつくる。
- ・ 子どもを持つ親が安心して働きに出られる環境をつくる。

(課題)

- ・ 地区集会所の開放に当たっては、施設管理や安全性の確保の問題について地域において十分な検討が必要である。

② 登下校の子どもたちの見守り隊の組織化や、子どもたちへの「おはよう」「お帰り」の声かけを推進したいと考えます。

(期待される効果)

- ・ 子どもたちの安全指導や見守りを通じ、地域の安全、安心につなげる。
- ・ 子どもたちへの声かけにより、地域の一体感を醸成する。

(課題)

- ・ 現在は地域により実施の仕方はさまざまであり、これらを検証し、より良い方法を検討していく。
- ・ 登校は集団であるが、下校時間は学年により違いがあるため下校の見守りについて検討が必要である。

③ 地域のまつりや伝統行事の継承と地域での積極的な取り組みを推進したいと考えます。

(期待される効果)

- ・ 子どもたちの心の中に楽しい思い出を残すことで、自慢できる「ふるさと」を引き継いでいくことができる。
- ・ 大人から子どもまで同じ時間を共有することで、世代間交流を図ることができる。

(課題)

- ・ 少子化により、これまで実施してきた伝統行事などの実施が困難になっている。
- ・ 地域行事への住民の参加が少ない状況がみられる。

(2) それぞれの世代の居場所づくり

人は自分が安らげる場所だけでなく、他の人も安らいで自然に交われる場所

を求める本能を持っています。それによって人の心は生き生きとよみがえり、他から認められることによって生きる喜びを感じて元気になれます。

人と人との関係は絆を生み、さまざまな助け合いに発展していきます。こんな居場所づくりを進めて行くことが必要であると考えます。

- ① 誰でも気軽に立ち寄って、楽しくおしゃべりしたり、ゆっくりくつろぐ憩いの場、地元の人がちょっと寄り道したくなる場所が地域の中にたくさんあれば良いと考えます。

(期待される効果)

- ・地域の課題、問題など安心して暮らすために必要なことは何か、地域のみんなで考える場となる。
- ・新しくサークルやいきがい活動が芽生えてくる。

(課題)

- ・各地域において昔から続いてきた集まり（講など）が急速に無くなってきている。地域において継続、発展できる仕組みを作っていく必要がある。

(3) 地域のビジネスプランと交流

地域と人が元気になるには売れるものづくりが必要です。地域の資源を活かした地場産品の開発とブランド化ができれば地域のみんなで携われることができ協働意識が生まれてきます。生産と加工、販売を結びつけて地域で行なうことができればやりがいのあるまちづくりとなります。

- ① 中川駅周辺へ「町の駅（アンテナショップ）」などを作り、嬉野管内の物産の販売や地元の農産物を使ったレストランなどができればと考えます。

(期待される効果)

- ・地場産の旬の野菜等が安全に消費者に提供でき、また、生産者も少量であっても個々のペースで生産、出荷が可能となり、高齢者の生きがいづくりにもつながる。
- ・「町の駅」などを基点として、いろいろなグループの自発的な組織化や消費者との交流など活動の広がりが期待できる。

(課題)

- ・利用できる施設の確保、経営に対してのノウハウが必要である。

- ② 獣害対策を兼ねたシカやイノシシの肉を利用した加工品（ペットフードなど）やストーブの燃料として間伐材を利用したペレットなど特産品の開発ができればと考えます。

（期待される効果）

- ・雇用の創出や原材料の供給など中山間地域の活性化につながる。

（課題）

- ・商品として需要があるのか市場調査が必要である。
- ・加工する原材料が恒常的に確保できるか明らかでなく、事業を実施するには広域的に行う必要がある。

#### （4）人材育成

各地域においてコミュニティの再生、個性や特色を活かした地域づくりが進められています。これらの活動においては従来の行政主導型から住民主体型へのシフト、住民の多様化、問題の複雑化によってこれまで以上に地域リーダーの機能発揮、育成の重要性が高まっています。

今後、まちづくりの核となって行動できる人材を養成することが必要です。

- ① 団塊の世代の大量退職により地域に多くの人材が還ってくる事が予想され人材獲得のチャンスになると考えます。

（期待される効果）

- ・外から地域を見ることができ、地域のポテンシャルの再発見につながる。
- ・一緒に活動していく中で仲間ができ、その中でリーダーが育っていくことが期待できる。

（課題）

- ・従来型の地域コミュニティの中で能力をうまく発揮できないことが危惧される。
- ・若い世代の人材発掘が困難である。

- ② 地域における人材バンクを作ったり、「リーダー養成塾」など研修への参加によりリーダーとしての資質を磨く取り組みを地域として行う必要があると考えます。

(期待される効果)

・国や県等への研修会への参加により、多くの情報と人脈を得ることができ、地域づくりのための貴重な財産となる。

#### 4. 実行する枠組み

この答申の中で提示されている様々な地域活動を主体的に担うであろう組織として、住民協議会を挙げることができます。この嬉野地区においても、6地区すべてで住民協議会が設立された今、私たちの住む町を活性化していく役割を住民協議会に期待することは自然な流れであると言えます。しかし、この答申は住民協議会に向けたものではないこと、さらにこの答申の内容を住民協議会に押し付ける意図を含んだものでないことは、ここに明確に記しておきます。

住民協議会は、地域の住民や活動団体で包括的に組織された組織です。つまり、一つの地区としては最も多くの意見を集約できる組織であると言えます。言い換えれば、地域が望んでいる方向性や地域が解決したいと考えている課題を様々な角度から数多く集めることができるということです。また、多くの人たちが集まることができるため、解決策を探るための知恵や考え方を多く集める事も可能になります。こういったことから、住民協議会の潜在能力が非常に高いことは明らかなことです。同時に、幅広く意見を集約できることから、地域に広く適応する解決手法にもなりえます。このように最適な解決策を素早く多くの人の力で見出し、実行していくことができます。

しかしながら、住民協議会は水平方向に包括された組織であることから、解決策の実行が可能な縦の組織を持っていません。したがって、自ずと実行組織を自治会、老人会などといった既存の組織に求めていかざるを得ません。また、住民協議会は、既存団体の自立性や主体性を阻害するものではないことから、並行して既存団体はこれまで通り、あるいはこれまで以上に独自の活動に取り組むことも可能です。さらに、事業活動の内容によっては、住民協議会よりさらに範囲が小さい団体で取り組んだ方が適正な規模であることから、より効果的であるものもあります。このように弾力的かつ適切に運用することで、本来の目的に沿って地域でできることを地域が果たすことで地域が得るメリットが最大化できることとなります。

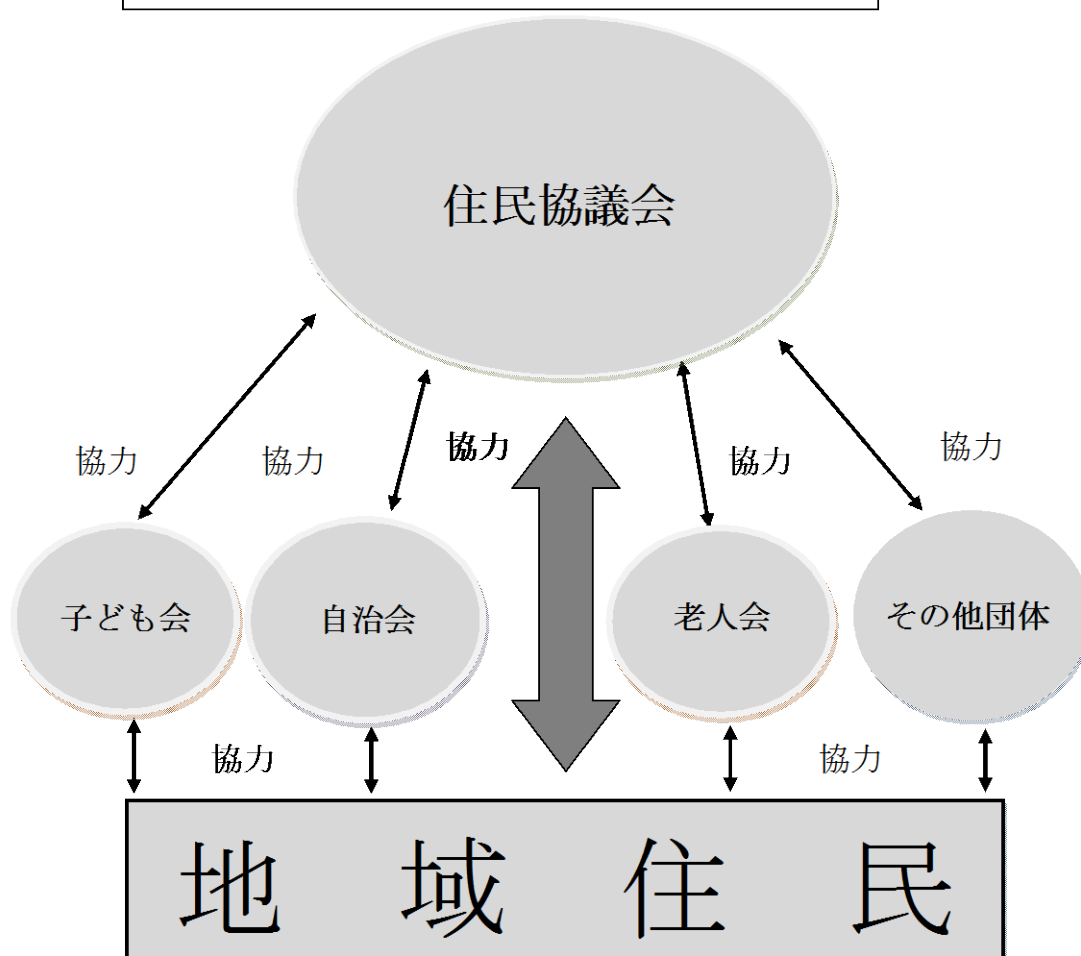
今後、住民協議会はますます発展し、様々な地域課題の解決にも力を発揮し、さらには地域の枠に捉われずにより広い範囲で連携し、住民と住民が助け合えるつながりを築いていってほしいと期待しています。

## ○コミュニティの構築（図1）

### 「地域でできること」

～市民一人ひとりが協力しあって、地域住民の幸せを実現するまち

- (1)地域ぐるみで行う子育て
- (2)それぞれの世代の居場所づくりと交流
- (3)地域のビジネスプランと交流
- (4)人材育成



\* 居住地を同じくする者が辛いこと、悲しいこと、楽しいことなどを共有し、分かち合い、助けあって暮らしていく社会の実現（コミュニティの構築）

\* 共通の趣味、興味、活動（ボランティア、自治会活動等）などでつながるコミュニティの構築が実現の鍵となる



## 5. 結びにかえて

嬉野地区地域審議会は地域でできることとは何かという諮問を受け、その具体的な内容については前段で示しました。ここで示した提案内容は、ワークショップやシンポジウムの意見聴取会において住民の方々から直接伺った内容もありどれも非常に大切なものです。ご協力いただいた方々には、改めて心よりお礼申し上げます。

今回の諮問に即して考えれば、これらの提案をもって地域審議会としての役割を果たしたものと言えます。しかしながらその一方で、これらの提案を現実のものとするための仕組みや実際に取り組んでいくための枠組みなどについては今後の議論に譲らざるを得ない部分もあり、地域審議会の中でも実行する枠組みに対しては厳しいご意見をいただいたことも事実として認めざるを得ません。

こういった背景の下、地域審議会は、住民協議会がコミュニティの構築を進めるための中心的な組織として役割を果たすことを期待しています。

その中で、地域内のすべての案件が住民協議会の責任や役割とすることは適切ではありません。住民協議会の事業活動から生じる地域住民の負担も考慮しなくてはならないためです。このいずれについても地域の住民が直接関わって支えていく体制を構築することで、地域全体で支えることが必要です。

住民協議会が自立を目指していくことは、住民協議会そのものの組織や事業活動の継続を担保するための指針として必要な方向性であると言えます。その中でも特に財政的な自立を目指すこと＝自主財源の確保に努めることは最も重要であると言えます。現在は市から活動交付金が交付されています。活動交付金はこれまでの補助金に比べれば、支出に係る制限は緩やかではあるものの、公金であるため制約から逃れられるものではありません。そのため、制限を受けない自主財源の確保に努め、財政的な自立を進めていくことが直接的な地域利益の向上につながります。

今期の地域審議会は、この答申をもってその役割を終えます。願わくは、この答申が有意義に活用され、私たちの地域のみならず松阪市全域の市民が、自分たちが住む地域を大切に思う心を育むことができるように願うものです。

## 嬉野地区地域審議会委員名簿

会長	山本	恭嗣	
副会長	前野	邦子	
委員	安保	喜美子	
委員	安保	正巳	
委員	居附	康子	
委員	稲垣	明仁	平成 24 年 3 月 31 日まで
委員	植野	繁宏	平成 24 年 4 月 1 日から
委員	浦出	ひとみ	
委員	太田	浩司	
委員	金児	守男	
委員	小坂	滋子	
委員	小森	つや子	
委員	榊原	清	平成 24 年 5 月 8 日まで
委員	辻井	祥子	
委員	中津	正吉	平成 24 年 5 月 9 日から
委員	野瀬	岩朗	
委員	平岡	謙一	
委員	本多	孝雄	
委員	目黒	重徳	
委員	山際	京子	

(委員は五十音順、敬称略)

## 嬉野地区地域審議会開催経過

### 【平成 23 年度】

#### 第 1 回地域審議会

日時 平成 23 年 9 月 15 日（木）午後 7 時から

場所 嬉野保健センター 大会議室

出席者 18 名

- 内容
1. 委嘱状交付
  2. 委員自己紹介
  3. 正副会長選出
  4. 諮問
  5. 地域審議会概要説明
  6. 「市民みんなの道標」～未来につなげるまちづくり計画～について
  7. 諮問に対する議論の進め方について

#### 第 2 回地域審議会

日時 平成 23 年 11 月 14 日（木）午後 7 時から

場所 嬉野保健センター 大会議室

出席者 16 名

- 内容
1. シンポジウムの企画（案）について
  2. 地域でできることについて
    - A グループ「地域ぐるみで子育て」
    - B グループ「それぞれの世代の居場所づくりと交流」
    - C グループ「地域のビジネスプランと交流」

#### 第 3 回地域審議会

日時 平成 24 年 2 月 16 日（木）午後 7 時から

場所 嬉野社会福祉センター 集会室

出席者 15 名

- 内容
1. シンポジウムの企画（案）について
  2. 地域でできることについて
    - A グループ「地域ぐるみで子育て」
    - B グループ「それぞれの世代の居場所づくりと交流」
    - C グループ「地域のビジネスプランと交流」

平成 23 年度各地区地域審議会正副会長会議

日時 平成 24 年 3 月 29 日（木） 午後 4 時

場所 松阪市議会 第 3、第 4 委員会室

出席者 2 名

- 内容
1. 座長選出
  2. 平成 23 年度審議の状況について
  3. 意見聴取会及び平成 24 年度審議の進め方について

【平成 24 年度】

第 1 回（第 4 回）地域審議会

日時 平成 24 年 6 月 5 日（火） 午後 7 時

場所 嬉野保健センター 大会議室

出席者 18 名

- 内容
1. 前年度の会議内容について
  2. ワークショップの内容について
  3. 地域シンポジウムの開催について

《ワークショップ》

日時 平成 24 年 7 月 6 日（金） 午後 7 時

場所 嬉野保健センター 大会議室

参加者 29 名

内容 「地域でできること」について

第 2 回（第 5 回）地域審議会

日時 平成 24 年 8 月 3 日（金） 午後 1 時 30 分

場所 嬉野保健センター 大会議室

出席者 15 名

- 内容
1. ワークショップの意見の確認
  2. 地域シンポジウムについて
  3. 答申に向けてのスケジュール

《意見聴取会》

日時 平成 24 年 9 月 8 日（土） 午前 9 時 30 分

場所 嬉野保健センター 大会議室

参加者 85 名

内容 嬉野地域シンポジウム ～地域でできること～

平成 24 年度各地区地域審議会正副会長会議

日時 平成 24 年 11 月 22 日（木） 午後 3 時 30 分

場所 松阪市議会 第 3、第 4 委員会室

出席者 2 名

内容 1. 意見聴取会を終えて  
2. 答申日及び答申書案スタイルについて

第 3 回（第 6 回）地域審議会

日時 平成 24 年 12 月 4 日（火） 午後 7 時

場所 嬉野保健センター 大会議室

出席者 14 名

内容 1. 答申（案）について  
2. 答申について

# 回 覧

/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

## 嬉野地域シンポジウム～地域でできること～ ぜひご参加ください！



**日時** 平成 24 年 9 月 8 日 (土)  
午前 9:30～12:30 (開場 午前 9:00)  
**場所** 嬉野保健センター 大会議室

**第 1 部 意見聴取会** (午前 9:30～)  
テーマ:「地域でできること」について  
皆様のご意見を伺います！

**第 2 部 パネルディスカッション** (午前 10:30～)  
テーマ:これからの住民協議会のあり方  
・パネリスト 嬉野地区各住民協議会代表  
・コーディネーター 松阪市長 山中 光茂



【お問合せ】 嬉野地域振興局 地域振興課  
Tel 0598-48-3804 Fax 0598-42-6220

# プログラム

## 第1部

嬉野地区地域審議会意見聴取会 (午前 9:30~)

主催:嬉野地区地域審議会

テーマ:「地域でできること」について

## 第2部

パネルディスカッション

(午前 10:30~)

主催:松阪市

テーマ:これからの住民協議会のあり方

⇒活動交付金のあり方について

⇒広域連携体制の構築について

⇒議会の役割と住民協議会の役割について

### ・パネリスト

嬉野宇気郷住民協議会会長

森下 芳洋 さん

中郷まちづくり協議会会長

大森 嘉美 さん

豊地まちづくり協議会会長

松田 正次 さん

中川まちづくり協議会会長

中津 正吉 さん

豊田まちづくり協議会会長

榊原 清 さん

中原まちづくり協議会会長

越山 浩司 さん

(順不同)

### ・コーディネーター

松阪市長 山中 光茂

**主催:嬉野地区地域審議会、松阪市**

【付録】

嬉野地域シンポジウムアンケート結果の考察  
～意見聴取会アンケートの回答から～

意見聴取会のアンケートで「地域で決められることやできることが増えること」についての設問を設けました。いうまでもなく、今回の諮問の内容を基礎とした設問です。この答申において、多くの具体的な提案を致しましたが、その提案を実行していくのは、私たち地域住民自身です。さらに、これらの提案だけに限らず、地域に対してより多くのことを求められる可能性もあります。現在の時代背景、あるいは社会の要請に沿い、嬉野地域を含む松阪市においても、地域で考え地域で決定し地域で実行する流れが動き出しつつあります。

現在の地域環境において、このような方向性が嬉野地域において既に認められているのか、これから受け入れられていくものなのかということ把握することは、先ほどの「流れ」を大きくしていくことの前提になるものです。

回答結果は、下表のとおりです。

表1 設問：「地域で決められることやできることが増えることは？」

望ましい	望ましくない	無回答	計
29件	3件	27件	59件
49%	5%	46%	100%

(アンケート有効回収枚数：59枚)

表2 設問：「その理由をお聞かせください。」

回答	理由
望ましい	みんなで地域の事を考えるのはよい事だと思う。
望ましい	必要なことであれば当然です。
望ましい	話が末端まで行き渡り話し合いの場が生まれるので、みんなが一つのことに向かって活動している感が得られるから。
望ましい	地域で必要事項を決め実施できる
望ましい	やる気のある人を助ける方向で
望ましい	地域まちづくりと行政がうまくマッチングしたまちづくりを進めていただきたい
望ましい	自治会とうまく協力しあう
望ましい	多種の住民要望に対応できると思う
望ましい	それぞれの地域の特色が出やすい
望ましい	嬉野には、多くの人材がいっぱいいます。まずバンクを作って活用場の提供。その上で積極的な育成を図るべし



望ましい	まちづくり協議会がやると良い。自治会活動の中では多くてできない
望ましい	地域の内容、問題を検討して自分たちの方向で取り組むことができる
望ましい	今は欠けていることは近所の会話。そのため多くの行事を計画する
望ましい	地域の困りごとに対して迅速に対応できそう
望ましい	まちづくり協議会に事業が多すぎる
望ましい	望ましいと思うが、協議会が進めるには、人材不足であると思われる
望ましい	地域の地域による地域のための事業が企画運営できることは大変良いと思う。しかし、資金的なところでハンデが多い
望ましい	社会に少しでも奉仕したい
望ましい	自主性や主体性が強くなると思います。

(記述あり：19件)

地域で決められることやできることが増えることが「望ましい」という回答が、有効回収 59 件中 29 件 (49%) ありました。

このような回答結果であったこと理由は、当日の参加者に地域の役員あるいはその経験を有すると思われる方の比率が高かったことが上げられます。このような参加状況を踏まえてみると、日常的に地域づくりや地域課題の解決に携わる経験に裏打ちされ、現況の理解が深く制度的に不都合が生じている部分の把握も進んでいると思われます。

その一方で、この設問に未回答であった方、あるいはアンケート自体を提出されなかった方も、前参加者 85 名中 26 名 (31%) ありました。この方々は、自分の意思を表すには時期尚早であると感じられたのではないのでしょうか。

振り返って、なぜ「望ましい」と評価されたのか考えてみます。「望ましい」と評価された理由が記述されています。いくつかを改めて書き上げてみると「地域の事を考えるのは良いこと。」「多種の住民要望に対応できる。」「自分たちの方向で取り組むことができる。」「迅速に対応できる。」「地域のための事業が企画運営できることは大変良い。」「自主性や主体性が強くなる。」と評価されています。ここで記載された理由は、「地域の課題を自分たちで解決する」ことに対して期待する内容をそのまま言い表したものであると言えます。

言い換えれば、回答理由に表れている具体的な期待の内容を実感してもらうことができれば、地域住民が自分たちの地域を良くしていく役割を主体的に担うことが受け入れられ、地域全体の達成感につながっていきます。そうなれば、

「地域の課題を自分たちで解決する」ことが好意的に受け入れられ、良い形で循環していくことになると思われます。

ここで好意的に表された期待感をよい方向に伸ばしていくことを最重要の方向性として、私たちと共に松阪市も受け止めることを期待しています。